
クリニックの外来診療

クリニックの実施成績

小野良樹

東京都予防医学協会保健会館クリニック所長

はじめに

東京都予防医学協会(以下「本会」)が運営する保健会館クリニックは、健康保険法による一般外来と専門外来、老人保健法による地域住民の健康審査およびがん検診を実施している。

一般外来は、地域住民の診療と職域での定期健康診断後の有所見者に対する診療と事後指導を希望に応じて実施している。

専門外来は、消化器(肝臓病含む)、循環器、糖尿病、腎臓病、呼吸器、整形外科、乳腺、婦人科、甲状腺、更年期、心療内科、代謝、禁煙の13科と小児相談室で構成される。

専門外来の受診者は、本会の1日人間ドック、労働安全衛生法による定期健康診断、学校保健法による健康診断、老人保健法による健康審査などで要精密検査・要受診と判定された人で、当クリニックの受診を希望された人、または一般外来受診者で専門外来の受診を必要とされた人である。

診療には、クリニック常勤医および外部(東京医科大学、慶應義塾大学医学部、東京慈恵会医科大学、順天堂大学医学部、日本大学医学部、日本医科大学、昭和大学医学部、がん研有明病院、東京警察病院、杏雲堂病院)の専門医らがあたっている。

優秀な非常勤医の協力を得て、小世帯の割合には多くの診療業務を実施している。先進的医療が行われる一方、行間の診療が欠如しないよう細心の注意を払っている。近年、診療部門をさらに強化すべく常勤医師の増員を図り、2006(平成18)年には画像診

断専門医を、2008年には乳腺外科専門医をそれぞれ1人ずつ増員した。

看護師は20人在籍している。一般外来、専門外来の看護業務をそれぞれ交代で担当している。本会の看護師は、がんに関する精検結果の追跡調査を分担して行っており、がん診断の精度管理にも精通している。追跡する項目は、子宮がん、乳がん、肺がん、胃がん、腹部がん、大腸がん、前立腺がんである。各担当の看護師の努力により追跡調査が行われ、がん発見における陽性反応適中率は向上している。

看護師はこのほか、本会内危機管理委員会の下部組織であるリスクマネジメント部会を担当している。この活動により、業務マニュアルは日々更新され、インシデントは減少し、看護業務の健全化が図られている。また個人情報保護法に基づく教育も日常的に行われている。

診療報告

年間総受診者は17,862人である。一般内科の年間受診者は3,352人、(全受診者の18.8%)であった。

専門外来の受診者は、乳腺外来1,373人[同7.7%]、婦人科外来2,092人(同11.7%)、甲状腺外来3,991人(同22.3%)、消化器外来2,277人(同12.7%)であった。その他、循環器外来、呼吸器外来、更年期外来、心療内科、整形外科、代謝外来、腎臓外来の実数は表1に示すとおりである。主な専門外来を概説する。

表1 クリニックの月別・科別受診者数

(2007年度)

科	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
一般内科		184	280	281	245	224	270	303	303	341	276	289	356	3,352
消化器 (肝臓病含む)		168	162	170	169	209	188	262	286	247	153	140	123	2,277
循環器		85	94	124	105	94	89	126	123	123	92	113	96	1,264
糖尿病		63	52	41	48	51	29	67	48	54	43	60	50	606
腎臓病		11	14	7	12	7	13	7	18	9	10	6	14	128
呼吸器		63	56	44	63	59	47	58	80	82	67	80	73	772
整形		15	15	15	13	15	18	17	20	13	19	20	13	193
乳腺		92	84	106	116	103	127	147	126	109	106	127	130	1,373
婦人科		144	136	209	207	196	198	202	176	178	139	173	134	2,092
甲状腺		310	310	288	340	421	354	349	286	368	305	295	365	3,991
更年期		24	37	24	48	43	26	53	34	45	34	39	37	444
心療内科		40	57	47	62	58	56	64	59	62	57	53	45	660
代謝		17	7	32	16	28	21	21	15	26	13	21	16	233
禁煙		2	4	7	7	3	4	6	6	3	11	9	6	68
外来栄養指導		2	4	4	1	5	3	4	2	3	1	4	2	35
腎臓病		1	2	5	8	9	6	6	6	4	2	1	6	56
貧血		2	2	1	5	4	2	3	0	0	2	0	1	22
コレステロール		7	5	2	8	5	5	7	5	9	8	3	6	70
心臓病		10	28	6	6	19	5	2	2	3	0	7	7	95
脊柱側彎		13	12	12	20	35	17	5	12	21	16	6	30	199
合計		1,253	1,361	1,425	1,499	1,588	1,478	1,709	1,607	1,700	1,354	1,446	1,510	17,930

甲状腺外来

担当は百溪尚子部長で、甲状腺分野で世界的に高名な医師である。この外来の特徴は、甲状腺に関する最新かつ先端の診療を実施していることである。患者本人に自分の病気について理解を深めてもらうためパンフレットなどを準備し、初診で不安を持っている患者には時間をかけて説明を実施している。それぞれの患者の事情を考慮し、予約は拒まずなるべく希望に添うよう心がけ、妊婦や遠方からの来院者のためには至急で検査を行い、即日判定をするよう心がけている。また、はがきでデータを送り、次の指示を出すなど患者の負担を減らす努力をしている。

子どものことを心配する両親には家族外来(ファミリー外来とも呼んでいる)を設け、小児科医と甲状腺の専門医が同じ部屋で親子一緒に診察を受けられるよう連携している。さらに、患者のためにバセドウ病教室を開き知識を深めてもらうと同時に、個人の質問に答えられるよう会場には出席者のカルテも準備している。百溪医師以外に岩間彩香医師、井上ゆ

か子医師ら、いずれも女性医師が担当している。このように患者主体の診療を実施しており、クリニック外来部門の主役を担っている。

妊娠中の甲状腺ホルモン異常は母子へさまざまな悪影響を及ぼす。このため妊娠初期の甲状腺機能検査のスクリーニングは大きな意義がある。現在乾燥る紙血を用いてスクリーニングを実施している。詳細は妊婦甲状腺検査の実地成績を参照願いたい。

乳腺外来

地域・職域を対象に実施した乳がん検診で要精密検査と判定された受診者、東京都産婦人科医会の会員より紹介された受診者を対象に、視触診、マンモグラフィー、乳房超音波検査、乳頭分泌物細胞診、穿刺吸引細胞診などにより質的診断を実施しており、「1.5次精検」と位置づけている。

一方では自覚症を有する患者の診療も増加し、外来そのものの対応が困難を極めてきた。このため、検診からの経過観察症例のうち、軽症例は検診へ戻すようにして、外来受診の必要な患者の時間的確保

に努めている。

本会の受診者で2次精検が必要な方には迅速に基幹病院を紹介し、経過観察が必要な人には不安を与えないで、安心して適切な間隔で検査を受けてもらうように配慮している。この乳腺外来を担当しているのも、主に女性医師である(詳細は乳がん検診の項参照)。

消化器外来

胃部レントゲン検査からの異常例について胃部内視鏡検査を実施している。表2に示すごとく胃部内視鏡検査実施数は1,514例。そのうち生検数は561例(37.0%)であった。胃がん発見数は13例を数え、その69.2%は早期癌であった。精密検査受診者に対する胃がん発見率は0.52%、陽性反応適中率は0.52%であった。

年度別の胃がん発見数は、2000年42例をピークに斬減している(表2)。これは某巨大職域検診の脱落によるところが大きいことと、逐年胃検診による減少が考えられる。

一方、筆者は東京都に肝臓専門医の届出を行い、肝臓専門外来を併設した。現在、B型肝炎療法の薬物(エンテカビル)療法、C型肝炎のペグインターフェロン、リバビリンの併用療法を中心に実施している。

婦人科外来

長谷川壽彦医師、伊藤良彌医師を中心に診療を実施している。東京都産婦人科医会の会員より紹介された受診者および本会施設で実施した地域住民と職域の1次検診で子宮頸部細胞診のパパニコロウⅢa以上の受診者を対象にコルポスコピー検査、細胞診および組織診を併用して子宮頸がんの早期発見に努めている(詳細は子宮がん検診を参照)。

代謝外来

現在、女子栄養大学院大学教授の大和田操医師が担当しているユニークな外来である。新生児スクリーニングから抽出したアミノ酸代謝異常症(フェニルケトン症など)や学校保健で抽出した2型糖尿病など

表2 年度別の消化器外来の受診者数と
胃内視鏡件数・生検数・がん発見数

(1998～2007年度)

年 度	消化器外来 受 診 者	胃内視鏡 件 数	生 検 数	胃がん 発見数
1998	8,399	1,671	1,140	40
1999	7,459	1,549	1,004	28
2000	6,936	1,610	941	42
2001	6,574	1,739	1,111	29
2002	6,635	1,679	931	23
2003	4,278	1,531	757	18
2004	4,113	1,623	737	10
2005	4,027	1,743	708	21
2006	3,870	1,695	697	18
2007	2,277	1,514	561	13

を対象に、小児から成人に至るまでの成育医療を実施している。

禁煙外来

2007年4月より禁煙外来を新設した。時代の流れで受診希望者は少しずつ増加している。当初、貼付薬(ニコチネル)、その後、経口薬(チャンピックス)を用いて施療しているが、最近の禁煙成功率は約87%と高い傾向にある。

おわりに

本会クリニックの特徴は、地域を対象とした一般診療とは異なり独特な形態を呈している。受診者の多くは、検診からの要精密検査対象者のうち本会受診希望者で、このため受診者の居住区は都内多岐に及んでいる。各種精密検査(がん診断)に呼応するため、各専門医を配置している。

がん診断には当然精度管理が伴う。現在、精度管理のプロセス評価を高めるため本会内に、各種(胃、大腸、乳腺、肺、子宮、前立腺)がん検診の精度管理委員会を立ち上げ、鋭意努力を重ねている。この結果、年度ごとに陽性反応適中率(発見がん数/要精密検査数)は上昇している。同委員会での主要な対策としては、疑陽性、疑陰性の押さえ込みを図ることと、追跡調査の実施率を上げることである。現在この目標に向けて、医師、看護師および医事課スタッフが共同して取り組んでいる。